

「革新的GX技術創出事業(GteX)」ロジックモデル (R5年度要求額:60億円(新規))

現状

- 世界的な炭素中立化に向けた動きやESG投資の流れ等を受け、関連する市場の急速な成長が見込まれ、GX(グリーン・トランスフォーメーション)に向けた官民投資が急拡大。
- 2050年カーボンニュートラル実現は非常に野心的な目標であり、既存技術の展開・実装のみでは達成が困難。

課題

- 現状、カーボンニュートラル実現に向け、経産省によるGI基金において、企業等を支援。こうした取組に加えて、既存技術の展開・実装のみでは達成が困難なボトルネック課題について、アカデミアの基盤研究推進による解決が強く求められている。
- 日本のアカデミアでは、それぞれの領域で優れた成果を上げている研究者がおり、社会課題解決にむけては、こうした技術ポテンシャルを最大限活用しつつ、周辺技術とのすり合わせを行う等、統合的な研究開発推進が必要。

本事業の目的

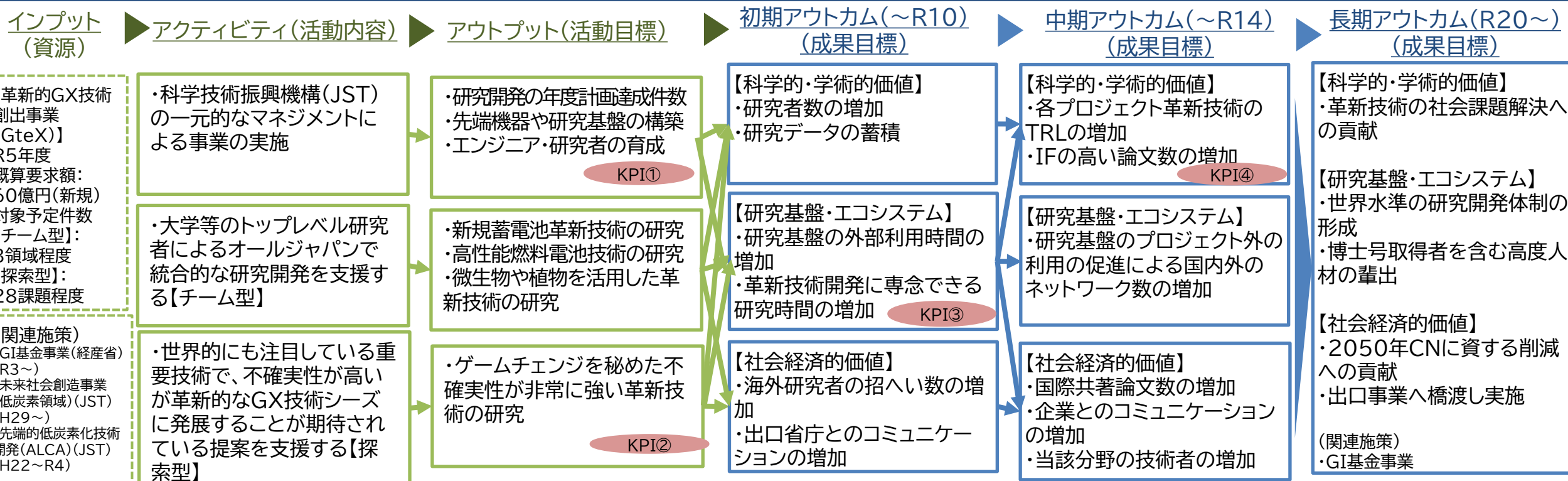
- アカデミアが強みを有する関連分野へ集中投資し、将来の、社会実装を見据えた研究活動を実施

(現状・課題を示すデータ)

- 日本機関所属研究者が論文数(2017~21年の合計)の順位で上位に位置するトピックの例

トピックのキーワード	日本機関所属研究者の順位(論文数)
電極、固体電解質、ガーネット	1~3位
電極; アノード; イットリア安定化ジルコニア	1, 8位
廃水、嫌気性処理、都市排水	1, 2, 6, 8~10位

NISTEPの協力のもと文科省が作成
(出典: ELSEVIER社 (SciVal))



インパクト

- 当該開発技術が2050CNの必要不可欠な構成技術を担う
- CN移行に伴う資源需要の増加により産業構造の変化
- 世界全体のCNを目指すうえで日本のイニシアチブを発揮することにより世界をリード
- 2050年のCN達成

測定指標と目標値

KPI ①

- ・年度計画達成件数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)
- ・エンジニア・研究者数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)

KPI ②

- ・支援した研究課題の数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)

KPI ③

- ・研究時間の増加 (R6年 前年以上⇒R8年 前年以上)

KPI ④

- ・各技術のTRL (R5年平均1⇒R14年平均3)
- ・高IFの論文数の増加率(R5年 前年以上 ⇒R14年 R5年度年比+100%)